

## 審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次） 人文社会科学部 社会科学専攻（M）

1. 【2】 経済・経営コースの教育課程について、経営分野の基礎となる経営組織、財務会計、企業財務等の内容が含まれているか、また、授業の内容・方法に実践的な内容・方法が含まれているかが不明確なため、妥当性も含めて明確にし、修士課程修了後、実社会で深い専門性を備えた高度専門職業人として活躍できることを説明すること。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

【意見】 人文社会科学研究科 社会科学専攻 (M)

【2】経済・経営コースの教育課程について、経営分野の基礎となる経営組織、財務会計、企業財務等の内容が含まれているか、また、授業の内容・方法に実践的な内容・方法が含まれているかが不明確なため、妥当性も含めて明確にし、修士課程修了後、実社会で深い専門性を備えた高度専門職業人として活躍できることを説明すること。

(対応)

経営学分野で開講予定の科目群によって経営学の基礎的な分野がカバーされることを説明するために、経済学・経営学コースの養成する人材及び進路に関する記述において、経済学分野と経営学分野を分けて説明し、経営学分野の科目でカバーされる内容及び実践的方法を記述するとともに、高度専門職業人としての進路として会計専門職を加筆した。また、経済学・経営学コースの学びの特色に関する記述において、履修モデルとして経済学分野だけでなく経営学分野をも記述することで、経営学分野の教育課程の具体的な内容を明示した。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (10 ページ)

| 新   | 旧  |
|---|--|
| <p>○経済学・経営学コース</p> <p>経済・経営を研究対象とし、ビッグデータがビジネスや政策立案にもたらす影響、AI の進展に伴うビジネスモデルとマネジメントの変化、貧困・格差・ジェンダー等の問題意識を包含する SDGs 等、現代的・先進的テーマにも触れる。経済学分野では政策の立案・評価を体験しながら市場・制度デザイン能力、政策デザイン能力を養う。経営学分野ではケーススタディを用いたり、ゲストスピーカーとして実務家を招聘することで、実践的な経営管理やマーケティング、監査論等により実際の企業経営における意思決定過程を多角的に学び、フィールドワークも活用することで、ビジネスデザイン能力を養う。これらにより、グローバル化・情報化の進展に伴って激しく変化する社会における諸課題の解決に向けて高度な専門性からアプローチし続け、さらに実践的能力を持って地域社会を先導できる人材を養成する。アジアからの留学生には日本の事例・理論を学ぶだけでなく、日本及び世界から母国の実態・諸問題を俯瞰して研究できる人材を養成する。</p> <p>修了後の進路には、公務員（行政職）、税理士等の会計専門職、県内外の民間企業の専門職、進学者がある。</p> <p>修了生は、上記の進路先において地域社会を先導し、活性化させる役割を果たしていく。</p> | <p>○経済学・経営学コース</p> <p>経済・経営を研究対象とし、IoT 等のイノベーションによって収集可能となったビッグデータがビジネスや政策立案にもたらす影響、AI の進展に伴うビジネスモデルとマネジメントの変化、貧困・格差・ジェンダー等の問題意識を包含する SDGs 等、現代的・先進的テーマを学ぶことで、より広い視野のもとで市場・制度デザイン能力、ビジネスデザイン能力を養い、さらに政策の立案・評価を体験することによって政策デザイン能力を養う。これらにより、グローバル化・情報化の進展に伴って激しく変化する社会における諸課題の解決に向けて高度な専門性からアプローチし続け、地域社会を先導できる人材を養成する。アジアからの留学生には日本の事例・理論を学ぶだけでなく、日本及び世界から母国の実態・諸問題を俯瞰して研究できる人材を養成する。</p> <p>修了後の進路には、公務員（行政職）、県内外の民間企業の専門職、進学者がある。</p> <p>修了生は、上記の進路先において、激しく変化する社会における諸課題の解決に向けた政策立案に貢献することにより、地域社会を先導する役割を果たしていく。</p> |

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (25 ページ)

| 新   | 旧   |
|---|---|
| <p>○経済学・経営学コース</p> <p>激しく変化する社会の本質を見極めるための視座として、経済学・経営学に関するオーソドックスなディシプリンに依拠する授業科目群をバランス良く配置し、学生は自らの研究計画に沿って必</p> | <p>○経済学・経営学コース</p> <p>激しく変化する社会の本質を見極めるための視座として、経済学・経営学に関するオーソドックスなディシプリンに依拠する授業科目群をバランス良く配置し、学生は自らの研究計画に沿って必</p> |

|   |   |
|---|---|
| <p>要な専門科目を選択する。</p> <p><u>経済学分野の具体的な履修モデルとしては、金融論の研究を志す学生の場合、本コースのコア専門科目である「金融論研究Ⅰ」において伝統的な金融の仕組みや行動を理解するとともに、フィンテックなどの新しい金融サービスがもたらす影響を学ぶ。さらに、「アジア経済論研究Ⅰ」においては2007年のグローバル金融危機の影響をアジアという視点から俯瞰するとともに、「経済政策研究Ⅰ」においては財政金融政策というより広い枠組みの中で金融政策を評価する姿勢を養う。</u></p> <p><u>経営学分野の具体的な履修モデルとしては、税理士等の会計専門職を志す学生の場合、「監査論研究Ⅰ」や「管理会計論研究Ⅰ」を学ぶほか、「経営管理論研究Ⅰ」など経営学分野の基本的領域を履修して、企業経営を体系的に理解する。グローバル展開を視野に入れた企業の意思決定に関する経営管理層を目指す学生の場合、対象とする地域の市場や顧客を検討するための視点として「マーケティング研究Ⅰ」を学ぶだけでなく、「経営戦略論研究Ⅰ」や「金融論研究Ⅰ」といった、企業での実務を想定した実践的な学びと組み合わせることで、諸課題の解決を提案できる専門性を養う。これらの学修においては、ケーススタディや実務家の招聘による実践的学修を織り交ぜていく。</u></p> <p><u>経済学・経営学いずれの分野においても、自らのテーマを法制度・慣行という視点から理解するために、拡充専門科目として、法学・行政学コースから、物件法・債権法を主題とする「民法研究BⅠ」と会社法・独占禁止法等を主題とする「商法・経済法研究Ⅰ」を履修することで、視野を広げ、実践的な知識を得ることができる。</u></p> <p><u>このような学修を通して専門性を高めるとともに、キャリア支援科目として茨城県内の民間企業へのインターンシップを活用し、実践的・俯瞰的な視点から市場・制度デザイン能力、ビジネスデザイン能力を養うことで、地域課題の解決に貢献できる人材を養成する。</u></p> | <p>要な専門科目を選択する。</p> <p>具体的な履修モデルとしては、金融論の研究を志す学生の場合、本コースのコア専門科目である「金融論研究Ⅰ」において伝統的な金融の仕組みや行動を理解するとともに、フィンテックなどの新しい金融サービスがもたらす影響を学ぶ。さらに、「アジア経済論研究Ⅰ」においては2007年のグローバル金融危機の影響をアジアという視点から俯瞰するとともに、「経済政策研究Ⅰ」においては財政金融政策というより広い枠組みの中で金融政策を評価する姿勢を養う。<u>一方、金融を法制度・慣行という視点から理解するために、拡充専門科目として、法学・行政学コースから、物件法・債権法を主題とする「民法研究BⅠ」と会社法・独占禁止法等を主題とする「商法・経済法研究Ⅰ」を履修することで、視野を広げ、実践的な知識を得ることができる。このような学修を通して、専門性を高めるとともに、俯瞰的な視点から市場・制度デザイン能力、ビジネスデザイン能力を養成し、かつ、地域課題の解決に貢献できる人材を養成する。</u></p> |
|---|---|

以上